

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 住之江区

学 校 名 大阪市立清江小学校

学校長名 下山 敦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立清江小学校では、第6学年 51名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、大阪市平均・全国平均と比べて国語科においては約15ポイント、算数科においては約14ポイント、理科については約18ポイント低くなっている。  
平均無解答率は、大阪市平均・全国平均と比べて国語科算数科共に約5ポイント、理科においては約4ポイント高くなっている。最後まで諦めずに問題にチャレンジする姿勢を身につける必要があることが明らかになった。

## 分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

### 【国語】

国語の平均正答率は51ポイントで、大阪市平均・全国平均の平均正答率の78.5%の正答率となっている。「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の3領域全てにおいて平均正答率が低く、特に「C読むこと」については大阪市の平均正答率の76.4%の正答率という結果である。「C読むこと」の領域は、学校の教科書を読むためだけでなく、社会に存在するあらゆる情報を正確に理解し、活用する力の基礎となるのもである。すべての教科において「文章や資料を正確に読むこと」「根拠を明確にすること」「読んだことを言葉にし、対話すること」を意識したり、日常生活の中にある読書活動と関連付けたりしながら総合的に育成したい。

### 【算数】

算数の平均正答率は44ポイントで、大阪市平均・全国平均の平均正答率の75.9%の正答率となっている。全ての領域において平均正答率が低く、特に「C測定」については大阪市の平均正答率の67.4%の正答率という結果である。「C測定」の領域では「量の概念理解」と「適切な単位を用いての表現」を身につけ、日常生活に活かすことを目指している。日々の学習や学校生活の中で「予測→測定→伝える」経験を繰り返すことで、生活を効率的かつ合理的に送るための実用的なスキルとして育成したい。

### 【理科】

理科の平均正答率は39ポイントで、大阪市平均・全国平均の平均正答率の約70%の正答率となっている。全ての領域において平均正答率が低く、特に「Aエネルギー」については大阪市の平均正答率の64.9%、「B生命」については大阪市の平均正答率の62.5%の正答率という結果である。「実体験を通して興味の種をまく」ことをきっかけに、「図や絵」を描いて表す習慣や「予想→結果→考察」の思考サイクルで考える習慣を大切にしながら、「五感を用いた実体験」と「知識」が結びついた確かな力となるよう育成したい。

質問項目(5)「自分には、よいところがあると思いますか」(6)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して、児童の肯定的な回答の割合は大阪市平均・全国平均を上回っており、児童の自己肯定感の高まりが感じられる。一方、(7)「将来の夢や目標を持っていますか」(11)「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して、児童の肯定的な回答の割合は大阪市平均・全国平均を下回っている。今後、キャリア教育に注力し「自分らしく、豊かに生きる力」を育む必要がある。また、(9)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(12)「学校に行くのは楽しいと思いますか」(14)「友達関係に満足していますか」の質問に対して、児童の肯定的な回答の割合は大阪市平均・全国平均とほぼ同等である。友人と良い関係を築きながら、楽しく学校生活を送っている様子が伺える結果となっている。

### 今後の取組(アクションプラン)

今年度から校内研究のテーマを『すべての子どもが「わかる」「できる」授業を目指して～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを通して～』とし、UDの視点を取り入れた授業改善に取り組んでいる。特に「焦点化」「視覚化」「共有化」を3つを授業づくりの共通の視点とし、児童にとってわかりやすく学びやすい環境づくりを目指している。また、昨年度から引き続き学力向上支援チーム事業(重点支援)を活用し、指導方法の工夫を行ったり、放課後学習を行ったりすることにより、基礎学力の定着に努めている。さらに、教育環境の充実に向けて「navima」等の一人一台学習者用端末のソフトを効果的に活用し、意欲的に学習できるようにしたり、学習データ配信等を積極的に利用したりして、基礎的・基本的内容の定着を図っている。